



第12・13回かながわ教育学講座

平成30年度のかながわ教育学講座もいよいよ終わりを迎えます。平成31年2月3日(日)、10日(日)に第12・13回かながわ教育学講座を開講しました。両日とも総合教育センターの各研修室にて「授業発表」を行いました。

演習「授業発表」

これまでに第4回「いま求められる授業」、第6回「授業づくりを学ぶ①」、第9回「授業づくりを学ぶ②」と授業力向上に係る講座を行いました。今回の授業発表はその集大成となります。

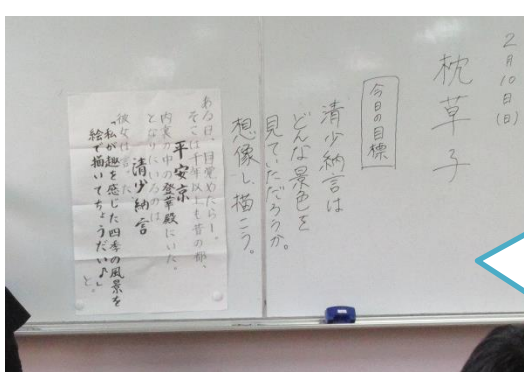
初めに授業者から、授業の概要や児童・生徒が主体的に取り組むための工夫など、授業参観の視点について説明がありました。



授業のポイント

- ・児童・生徒が主体的に参加できるように工夫しているか
- ・授業のねらい・児童生徒に身に付けさせたい力は明確に伝わっているか
- ・声の大きさ、話の分かりやすさはどうか
- ・立ち居振る舞い、板書や教具などはどうか

その後、受講者は、事前に準備してきた指導案を基に、授業の導入部分の10分間を発表しました。教育実習にもまだ行っておらず、授業をすることが初めての人から、臨時的任用職員として学校現場で教壇に立っている人など、受講者の立場や経験の違いはありますが、子どもに身に付けさせたい力を明確にし、児童・生徒が主体的に参加できる授業を目指して取り組みました。掲示物を持参し、学習のあしあとを振り返ることのできる板書の工夫を施したり、児童・生徒の学習意欲を向上させ、主体的に取り組めるような発問の工夫をしたりと、教材研究や指導案検討を重ねてきた様子が見て取れる授業発表でした。



本時の目標を板書し、見通しを持たせるとともに、授業のねらいを明確化しました。



一目で学習過程が分かるように、板書を工夫しました。

適宜、ペアワークやグループワークを取り入れ、主体的な学びを促しました。



授業者以外の受講者は、児童・生徒役となって授業を受けました。「児童・生徒が主体的に参加できるように工夫しているか」、「授業のねらい、児童に身に付けさせたい力が明確に伝わっているか」、「声の大きさ、話の分かりやすさはどうか、立ち居振る舞い、板書や教具などはどうか」といった視点から参観していました。授業が終わると受講者同士で、授業者の授業から参考にしたい所やよりよい授業となるためのアドバイスを伝え合いました。活発に手を挙げ、交流し合うことで、授業づくりについて考えを深めることができました。



受講者同士の意見交換の後に、所員（指導主事、教育指導専門員、教育指導員）からの指導と助言がありました。授業づくりにかかわることだけでなく、教員としての心構えなどについても助言がありました。

受講者は1時間の授業づくりの難しさとともに、楽しさを実感していたように見受けられました。このような実践的な研修を受講できるのも、かながわティーチャーズカレッジの魅力です。今後もよりよい授業づくりを目指し、継続して努力を続けてほしいと思います。



受講者の感想

実際教壇に立ったら気を付けることなど、様々なコメントをいただけて大変参考になりました。改めて、児童・生徒主体の授業が必要と分かりました。教え込みではなく、考えさせることが大切だと学びました。